

救急車を呼ぶ時ってどんなとき？

急な病気や怪我をしたとき、『救急車を呼んだ方がいいのか？』と迷うと思いませんか？
迷うときのための参考に、『救急受診ガイド』があります（愛知県ホームページでも閲覧できます）
今回は、適切に救急車を呼ぶ時の症状を一部紹介します。



胸や背中

- 突然の激しい痛み、冷や汗を伴う
- 胸の真ん中が締め付けられるような痛みで、2～3分続く
- 痛む場所が移動する



頭

- 突然の激しい頭痛で、吐き気と嘔吐を伴う
- 今までのなかで経験したことのない頭痛
- 声かけしても反応がない、反応が鈍い

顔



- 突然顔半分が動かしにくくなる
 - 笑うと口や顔の片方がゆがむ
 - 突然ろれつがまわりにくくなる、うまく話せない
 - 突然ものが二重に見える
 - 顔色が青白く、冷や汗をかいている
- ※発症後直ちに受診が必要



お腹

- 突然の激しい腹痛、嘔吐を伴う
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血で、顔色が青く冷や汗をかいている

手足

- 突然の片方の手や足に力が入らなくなる、動かなくなる
- 支えなしでは立てないぐらい急にふらつく

上の症状が1つでも当てはまれば、重大な病気の可能性が考えられるので救急車を呼ぶ適応とされています。

上の症状以外にも、息をしていない・けいれんが治まらないなどは、救急車を呼ぶ適応です。

『いつもと様子がおかしな？』と感じた場合は、何か重大な病気が隠れているかもしれません。

そのようなときは、かかりつけ医に相談することも1つの方法です。

救急車は市民の命を守る数限られた財産です。救急車適正利用にご理解ご協力よろしくお願いたします。

